



※一般質問の内容は議員自身が6月定例会議事録に基づき記述しています。

QRコードを読み取り、令和5年6月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。

※部長名は、字数の関係上「部長」で統一して表記しています。



こんどう ちづる
近藤 千鶴
(キセキ)

第20回統一地方選挙を終え、改めて市長の政治姿勢と市長に対する要望について

問 静岡市では対立候補と話し合いの場を設けたが、市長は対立候補と話し合う気があるか。

市長 話し合いの場を設ける考えはない。

問 博物館*について建設の道筋をつけ、また、絶対必要な施設という気持ちに変わりないか。

市長 今もその気持ちに変わりはない。

問 博物館*について市長自ら、市民や多様な方の意見を聞く機会を設けることができないか。

市長 市民の皆さんとお会いした時は意見を伺うこともあるが、担当者に丁寧な説明と話を伺うように指示している。私の体は一つしかない。職員が補助してくれている。ご心配なく。

問 当選後の報道で「市民の良識の勝利」の発言は市民の混乱を招く。撤回する気があるか。

市長 市民の混乱を招くとは考えておらず、全く撤回する気はない。

意見 政治家は言葉が全て。市長の言葉は重い。夢を与える、明るい言葉を使っていたきたい。

問 文化会館と博物館とどちらが優先か。

市長 工事にかかるのは文化会館が先。

問 昨年の3月の改選時に副市長の辞任はできなかったのか。任期を全うできなかったのか。

市長 副市長からは昨年の3月に辞任の申し出があったが、私の市長の3期目の最後の1年であるため、強く慰留し継続してもらった。人事のことは議場で議論すべきものでない。あなたはなんでも思いついたことをどんどん、どんどんしゃべってしまって、それで議員さんですからしょうがないけれども、議論することとそうでないことを分けるよう努めてもらいたい。

意見 このまちは、市民の皆さんの税金で成り立っている。二人の間にどんな話し合いがあったか知れないが、そこには市民不在を感じる。

※博物館…(仮称)富士宮市立郷土史博物館構想



いなば こうじ
稲葉 晃司
(無党派)

富士宮市の農業について ～SAY農2023 その1～

問 人・農地プランに位置づけられた中心経営体は様々な支援制度を活用できるとあるが、諸課題をどの程度カバーすることができるのか。

部長 富士宮市では令和5年3月をもって人・農地プランの実質化作業が完了し、各地域のプランに位置づけられた中心経営体には新たに活用することが可能となる制度融資、農地利用効率化等支援交付金などの国庫補助事業のメニューの幅が広がるなどのメリットがある一方、人・農地プランに記載された諸課題は、担い手不足や農地の荒廃化など、我が国の農業の抱える構造的な問題に触れており、中心経営体が支援制度を活用しても特効薬のようにすべての課題を解決することは難しいと考えている。

市としては、地域の農業の問題解決に係る方向性を地域と行政が一体となって考え、連携して取り組んでいく必要性があると考え、国が令和4年度に農業経営基盤強化促進法を改正したことから、令和6年度末までに、市町村が主体となって地域農業の問題解決に向けた指針などを記載した地域計画の策定と、農業委員会が主体となって農地一筆一筆の利用状況を地図化した目標地図の作成に取り組み、今後の農業政策に着実に反映していきたい。

問 担い手不足を解決するために農業に触れる人を増やしていくことは大事な事。産業振興部長が思い描いているものは何かあるのか。

部長 担い手をしっかりと作っていくために、その地域地域に農業を頑張っていただけの方、中心的に農業を経営していただだけの方を把握し、耕作が難しい方には、耕作が可能な方をお願いすることも一つの手だと考える。市外からも市内で農業を頑張っていただけの方を取り込んでいくことは必要なことと考える。